

山村の古民家と木造校舎の役割

アニメ「おおかみこどもの雨と雪」の世界より

中新川の愉快的な仲間たち 2013. 05. 10

5. 田中小学校の保存再生について

「風も緑だ 若葉の朝・0・0・」で始まる、高島 高 作詞、高本 東六作曲の校歌がある。明治6年9月、田中村西光寺を仮校舎として設置されたのが田中小学校の始まりである。

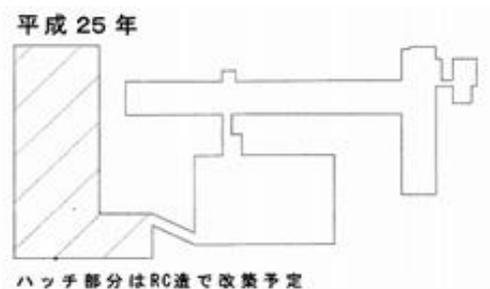
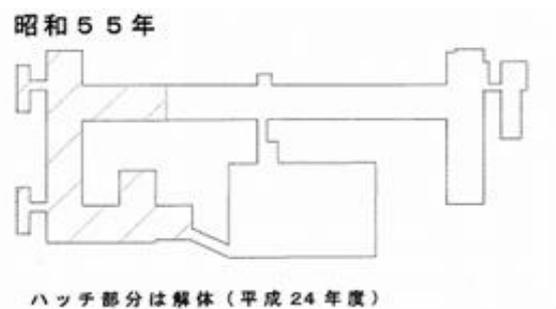
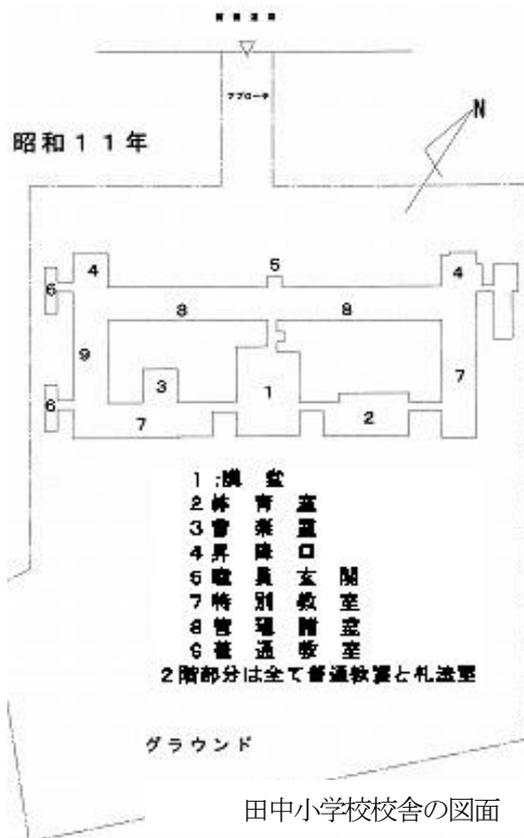
その後、校舎は移転を重ね、現在地に新築されたのが、昭和11年4月、玄関前にある三本松もその当時移植されて、以後77年間県内唯一の現役本造小学校である。

昭和55年2月に、新体育館が完成され、その為本造の講堂が解体された。(ステージは総檜造りであった)

昭和61年から63年にかけて大規模な改修工事が行われ、床下の補強、天井の張替え(当時としては、かなり高価な布張りやラワン材を使用していた)



田中小学校校舎正面



昭和 62 年「富山建築百選」に大沢野町の船疇小学校（現在は解体去れ RC 造となつている）と共に現役本造小学校として選ばれている。

おりしも、∴昨年より災害時の避難施設として、ふさわしくない、という理由で全面解体し、鉄筋コンクリート造に建替えるとの話が突然持ち上がる。反対する組織も無く、人も居ない状況で話が進み、建替えの基本計画も無く、実施設計に入る状態であつた。

偶然にも、アニメ映画「おおかみこどもの雨と雪」がヒット、子供たちが通う小学校を田中小学校がモデルとなり見学者が多数押しかけ、存続を求める声が全国から寄せられ、解体寸前であつた校舎に待つたがかつた。

正面側校舎を残し、他は解体し RC 造として設計変更し入札が行われようとしている。（災害時は危険だから全面解体、存続を求める声があるので正面側を残す、残した校舎の耐震補強は何も示されないままであり、もし示されるならば、解体された校舎も同じである。）

以前より、現校舎のままで、耐震補強と大規模改造を行えば市の建築遺産と考えていたが、定年退職となり、次の担当者に引き継いだが、なんら検討されず、ただ本造で、築 75 年を経過ということで全面解体と結論付けている。



田中小学校階段、面々では昇降口

校長室に保管されている資料によれば、当時の滑川町の全予算の約 40%、14 万円の事業費、施工は加藤組、今では想像できないが当時の町長加藤金次郎の会社が随意契約で請け負っている。

木材はほとんど佐渡の松材、佐渡の相川から生地まで船で輸送し、その後、荷車などで滑川に運ばれている。

大工、左官、などの職人たちは全て常用で雇用され、滑川の職人達が総出で従事している。栗石や子砂利など、児童達が毎朝、浜で石を拾って学校へ運んでいる。まさに、父母や子供達を巻き込んだ一大事業であつたらしい。

残念ながら、一部を残し解体となったが、残された本造校舎の保存・補強計画はどんな方法で？ まだ発表されていない、今後注視し、意見を述べてみたい。

◆ コーヒーブレイク 卒業生は語る

今回は、田中小学校卒業生である T 氏夫妻も加わり、当時の田中小学校を語っていただきました。;

90 歳の母親が小学 6 年生の時に今の校舎の築造があり、旧校舎から椅子を運んだって言うておられました。

私の子供の頃はよくかくれんぼをしたものです。特に階段室の裏の方は何かしらわくわく感があって隠れ家でしたね。また階段の 1F 欄干の頂部が桃のように丸い（一番下の写真参照）ので、皆で触りまくりました。そのせいか写真にもあるようにそこが今も光ってます。それから直線で 100m もある廊下をよく走ってました。



田中小学校 2 階、廊下と教室